

(福) ケアハウス信愛館

信愛館周辺の山々はきれいに紅葉し始めており、山が色づくその様子を昔中国の画家が、「山粧う」と言い表したそうです。玄関ロビーにいつも入居者皆様が生けてくださる花々、そのなかでもすすき、コスモス、りんどうなどが、華やかな雰囲気の中にも秋の季節感を届けてくれています。

◆十月一日(日)「秋月照覧会」を十八時から行いました。まずBSで放送された「絶景にっぽん月の夜」を鑑賞。

今まで知らなかった各地に伝わる珍しいお月見の風習に入居者の皆様は興味津々。続いていよいよビンゴゲームです。簡単なルールですが、なかなか揃ってこないこのゲーム、景品を選ぶ楽しさと共に、早く上がらないかというライラしながらも時は過ぎます。ふと窓に目をやると雲の間からきれいな月が顔をのぞかせ、ゲームでワイワイ言っていた今ま



でと打って変わって静かなひとときの中での名月観賞でした。こうして余韻に浸りながら皆様は居室に戻られました。

◆十月二十七日(金)かわらミュージアム企画展「繋がる、広がるキルト展」彩の世界へ」入居者皆様と鑑賞に出掛けました。パッチワークキルトにも様々な種類があり、今回の企画展には四人の作家作品が展示され、それぞれ作風が異なり、コウノトリをテーマにしたもの、外国の風景、また作者のイメージした抽象的な柄や色の取り



合わせにより華やかに、また逆に落ち着いた感じにもなります。パッチワークキルトは、作者の意向により無限にデザインできる世界であることに、皆様は感銘を受けられた様子。この後西の湖畔のカフェでティータイム。素晴らしい景色に話も弾みました。

◆十月二十八日(土)びわこシャロームチャペルのコーラスグループの皆様が来館され、歌声を披露していただきました。指揮者と指導をされているのが、入居者中沢郁美さんのご子息の中沢旨宣さんで、「ふるさと」「椰子の実」

「見上げてごらん夜の星を」や讃美歌を合唱されました。知っている歌ばかりでしたので、一緒に口ずさむ入居者の方々も多く楽しく過ごしました。また来館して歌っていただく約束をし、次回のリクエスト曲もお願いして、最後に讃美歌「いつくしみ深き」を全員で賛美しました。